## 大浦総合研究所

©大浦総合研究所

はじめに 目 赵 学びをせんとや生れけん 遊びをせんとや生れけん 仕事をせんとや生れけん

り)も動いたという故事からとられました。 で一一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、 平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇 平安時代末期、 「梁塵秘抄(りょうじんひしょう)」という歌謡集が編まれました。 その歌で梁(はり)の塵

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七五七七の調子など、さまざまなバリエ ーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん 遊ぶ子供の声きけば、我が身さえこそ動がるれ。 岩波文庫版)

が有名です。

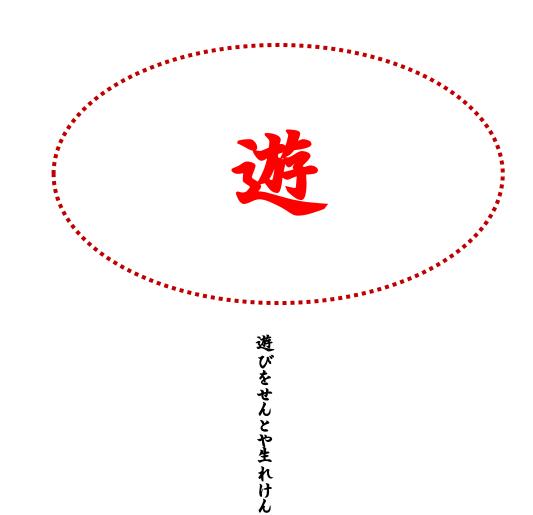
ざまなインフラ・制度の劣化が散見されるようになっています。財政の悪化をはじめとし 世界の景色は大きく変わりました。日米欧を中心に、それまで国や地域を支えていたさま の依存意識が強くなっていること、などが指摘されています。 て、改革のためのルール・規制が複雑化し、 〇〇ページ・二七〇〇文)を刊行させていただきました。この三年間で日本はもとより、 一人ひとりが能動的・自覚的に課題を解決して自律するという意識が衰退し、国や周囲へ 二〇一二年から二〇一四年の三年間、「ビジネス梁塵秘抄(一)~(十)」全一〇巻(九 身動きがとれなくなってきていること、国民

道路では強力でも、石ころだらけの砂利道では人智の出番も多いはず。世界が合理的・効 価値観を生かしたイノベーションには組織文化風土の深耕がものをいいそうです。 でなく、ピカソからアインシュタインまでを内包するのが二一世紀の経営学。固有の文化・ やるべきことの重なる領域を徐々に広げながら前進するしかありません。ドラッカーだけ 率的な方向に動き、その大きな流れに太刀打ちできない以上、やりたいこと・やれること・ として連携しながら、人間の思考力・発想力を強靱化すべきという課題。人工知能は舗装 工知能が人間の意思を介さずに仕事をする時代の予感。人工知能を敵ではなくパートナー 〇ドル程度のPCの情報処理能力が全人類の能力を超えるとの予測も台頭しています。人 すべては変わることを経験しました。一方、世界では二〇四五年問題が浮上、一台一〇〇 日本人は三・一一で、あり得ないことも起こること・見たくないものは観えないこと・

る深い思いを無我夢中で纏めさせていただきました。重ねてご寛恕ください。 本書は、「ビジネス梁塵秘抄」に続き、「遊(遊び)」「献(仕事)」「学(学び)」

東京・神楽坂にて

大浦 勇三

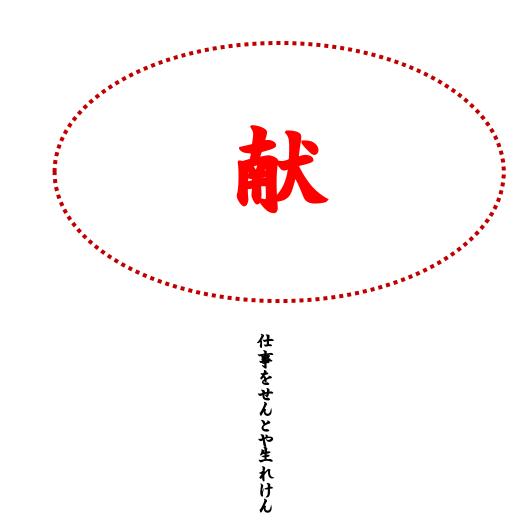


ーページ、三文を抜粋\*二〇ページ、六〇文より

繁盛するに従って益々倹約せよ 武士・画家の崋山の戒め買い手が気に入らず返しに来たら 売る時より丁寧にせよ十両の客より百文の客を大切にせよ 開店の時を忘れるな●商人八訓は渡辺崋山の覚悟 まず朝は召使より早く起きよ

判断力 リーダーに求められる資質 落とし物にある本音 問題を正しく設定すること 問題に優先順位をつけ何が最も重要かを明確にする 複雑なシステムから根本的な問題は何かを見抜く 人生は一生オーディション、とコピーライター・糸井重里 知的な成長の複雑なプロセスを経なければ養えない 答えは重要ではない

バリアを飛び越える 時速一○○キロのイノベーション 専門的な何かにならず 完璧なスイングを修得 楽しい経験を創り出す ならず者の傑物になる、と赤瀬川原平 インタフェースを探して未来を生きる 枠をはみ出しつつ色を塗る 精神的自給自足

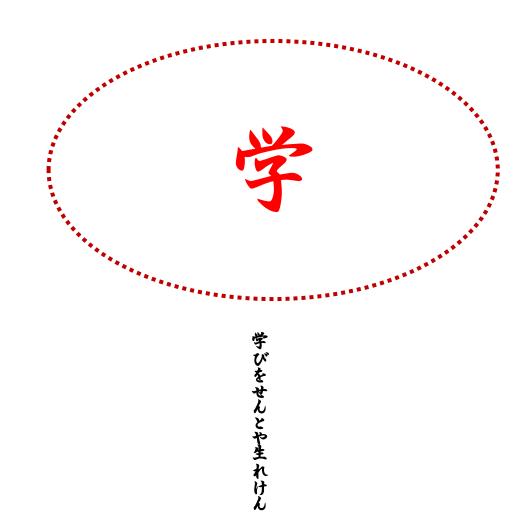


ーページ、三文を抜粋\*二〇ページ、六〇文より

日本の目指す方向 安定成長フェーズで獲得した社会・経済的技術 重い扱いの曲だからといって硬くやったらあかん 人口成熟化フェーズに固有の課題 工業基地のグローバル展開 健康・介護・生涯教育・科学技術・農業 環境・都市経営などの更新 工業力とサービス力の結合 面白うやれ、 と茂山千作

♥デザイン思考をイノベーションに生かす 外部支援OK 素早い試行錯誤を繰り返す 人間中心のアプローチを尊重する 不道徳に馴れ抵抗力を身に纏え、 ラピッド・プロトタイピング優先 行動・ニーズ・嗜好を重視 スタートから関わる と三島由紀夫

意思疎通の能力 異なる文化を持つ人の真意を掴む 短期の目標に目を奪われないこと 長期的な目標を見据える 人の言うことをよく聞く・相手は同じ文化を持つ人とは限らない 歴史は繰り返さないが韻を踏む、とマーク・トウェイン あいまいな状況の渦中で目標を見失わないこと 個人・組織の価値観を長期的目標に置き換える



ーページ、三文を抜粋

継続は才能 大事なのは標準化 その知恵の活用を一番見えやすくする方法が標準化 自己責任の回避はご法度 しかし標準化は イノベーションにも繋がる いろんな知恵を活用する仕組み 人間は楽観的になろうという姿勢を多少は持たなくてはいけない、と村上春樹 糸川英夫さんは天才的なロケット科学者 標準化というと すぐ効率化・コスト削減の側面から議論

仕事や行動を責める 独断は極力排除し説明に重心 推測では話さないリーダーの立場からメンバーに苦言を呈する 本人を責めるのではない 具体的事実に基づいて話す 危険(暗夜)と機会(一灯)は裏表 忠告するのでなく一緒に考えるなどの配慮 暗夜を憂うるのでなく一灯を恃む

大浦勇三(おおうら ゆうぞう)

oura@office.email.ne.jp

## 大浦総合研究所 代表

http://www.ne.jp/asahi/oura/ohura-research-institute

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

ジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。 メント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネ 改革、研究開発/商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジ 主担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術(ICT)戦略策定、業務改革/組織 米国大手コンサルティング会社 アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。

## 主な著書には、

- 「ビジネス梁塵秘抄(一)~(十): (全十巻)」 (大浦総合研究所)
- ・「イノベーション・ノート」(PHP研究所)
- 「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」 (ソフトリサーチセンター)
- 「よいコンサルタントの見分け方、かかり方」(清話会)
- 「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」(サンマーク出版)
- 「図解 ナレッジ・カンパニー」(東洋経済新報社) ほか

その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

## 続 ビジネス梁塵秘抄 (六)」 菝粹) 著者 大浦勇三

二〇一七年一二月 初版 第一刷発行

大浦総合研究所

〒二七〇・〇〇三四 松戸市新松戸七・五四三

€大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。